

令和 6 年度山梨県医師会優秀賞 受賞記念要旨

当科で経験した固形食による food protein-induced enterocolitis syndrome の 臨床像の検討

坂本 大聖

山梨大学医学部小児科学

Food protein-induced enterocolitis syndrome (FPIES) は消化管アレルギーの 1 病型で、原因食物摂取後 1 – 4 時間で嘔吐を主体とした症状が出現する。即時型食物アレルギーに頻出する皮膚・呼吸器症状は通常認めないが、重症例では活気不良や顔面蒼白などの全身症状を呈することがある。今回、FPIES によるアナフィラキシー様症状に至った 1 例を経験した。症例は生後 8 か月の女児で、豆腐を摂取した 2 時間後に嘔吐、顔色不良と活気低下が認められ、当院を受診した。来院時、食物アレルギーによるアナフィラキシーと判断されアドレナリン筋注と急速輸液、ステロイド投与が行われた。生後 7 か月までに 2 度、頻回な嘔吐で胃腸炎と診断されていたが、入院後の聴取でいずれも嘔吐前に豆腐の摂取が判明した。特定の食品による反復する嘔吐から、大豆による FPIES と最終診断した。当院で 2020 年以降の 3 年間で固形食による FPIES と診断された全

22 例の臨床像を検討した。卵黄 16 例、小麦 3 例、大豆 2 例、魚 1 例が診断され、1 例が 5.5 歳で寛解した。症状は嘔吐を 95 %、下痢を 27 % に認めたが、血便はいなかった。8 例で寛解確認を目的とした経口食物負荷試験 (OFC) が施行された。発症から初回 OFC までの期間は平均 1 年 5 か月で、摂取再開時期は平均 2 歳 4 か月であった。FPIES は IgE 依存性の即時型アレルギーと異なり食物摂取から症状出現まで時間がかかること、初回摂取時には症状が出現しない例が多いこと、診断特異的なバイオマーカーが存在しないことから診断が困難なことがある。繰り返す消化器症状を認めた際に、食事歴を詳細に確認することが診断の第 1 歩となる。早期診断は誤食時の適切な治療、除去による発症予防と栄養面・精神面でのサポートによる患児の QOL 向上へつながるため、疾患知識を広める必要がある。